

第28回

石井十次賞贈呈式

第37回

石井十次 生誕記念式典

平成31年4月10日(水)

たかしんホール

(高鍋中央公民館)

公益財団法人 石井十次顕彰会

石井十次賞とは

高鍋町が生んだ日本の福祉事業の先駆者である石井十次の精神と実践を継承し、発展させることを目的として制定。「児童を育て、学ばせ、働くの3点を満たしていること」「児童を養育する施設・地域における子育て支援などに顕著な実績を取めていること」「期間、30年以上継続していること」などを審査基準に、個人または団体に対して1点を選出し、毎年賞与を行うものです。

石井十次顕彰会は石井十次の偉業と人類愛の精神を広め、後世に伝えるために顕彰するとともに、ボランティア精神の高揚を図り、社会福祉促進に寄与することを目的に昭和57年、任意団体として発足。平成2年、財団法人として設立登記しました。

主な活動として、石井十次賞を設け、児童養護施設などを長年にわたり経営し地域の福祉活動を実践している施設や個人、団体などに贈呈。また、石井十次精神や生き方を高鍋町の子どもたちに継承してもらおうと「石井十次なわのおび賞」を制定。善行やスポーツ、芸術などで感動を与えるような活動や業績を残した町内の小中高校生を表彰しています。

石井十次の歌

安田 尚義 作詞
加藤 二郎 作曲

1. 村の祭りに縄の帯
しめたる友をいたわりて
母の手織りのつむぎ帯
とりかえやりし少年の
十次の心のびていく
2. 巡礼の子を救いたる
医学生十次医書を焼き
三千の孤児の父となり
神にささげた生涯は
岡山孤児院の名と朽ちず
3. 茶臼原の開拓に
労働自活のひとづくり
孤児教育の理想郷
築きてここに眠りたる
石井十次は世界の偉人

式次第

第28回石井十次賞贈呈式

1. 式辞 (公財)石井十次顕彰会 理事長 萱嶋 稔
2. 選考経過報告 石井十次賞選考委員長 潮谷義子 様
3. 石井十次賞贈呈 (社福)横須賀基督教社会館会長 阿部志郎 様
4. 受賞者謝辞 (社福)横須賀基督教社会館会長 阿部志郎 様
5. 来賓祝辞 宮崎県知事 河野俊嗣 様
6. 来賓紹介

第37回 石井十次生誕記念式典

1. 石井十次先生をたたえる歌 石井十次を歌う会
2. 祝辞 高鍋町長 黒木敏之 様
3. 献花 理事長・小学校・中学校・高等学校代表
4. 第4回石井十次なわのおび賞選考経過報告
高鍋町教育委員会教育長 川上 浩様
5. 第4回石井十次なわのおび賞贈呈
6. 石井十次顕彰意見発表 高鍋東小学校 5年 松浦百花さん
高鍋西中学校 3年 野崎健人さん
高鍋高等学校 3年 福島萌花さん
7. 石井十次物語贈呈 児湯郡内小学校・西都市内小学校
8. 石井十次踊り ひとつぎ会

第28回石井十次賞 受賞者紹介

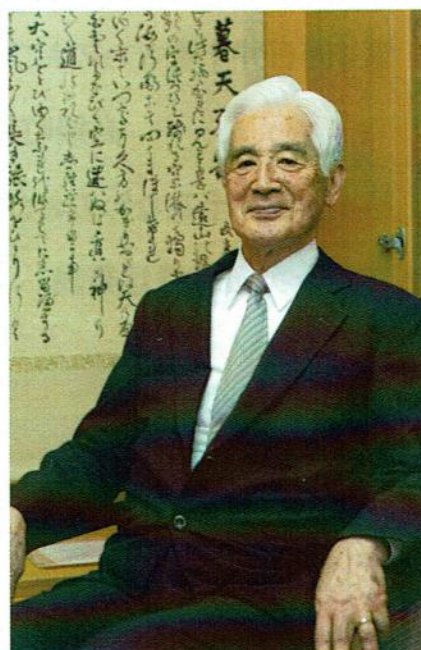
社会福祉法人横須賀基督教会社会館

会長 阿部志郎さま



阿部志郎さんは大正15年、東京生まれ。第8代青山学院長だった父のもと、13歳の時に受洗。東京商科大学(現・一橋大学)在学中の昭和23年、ハンセン病患者を献身的に世話していた看護師・井深八重さんの姿に感銘を受け、社会福祉の道に入る決意をします。翌年、同大を卒業し明治学院に奉職。昭和25年にはアメリカ・ニューヨーク州のユニオン神学大学で倫理学を学ぶため留学しますが、この時代にエベレット・トムソンさんと出会います。

氏は終戦翌年の昭和21年、横須賀基督教会社会館を開設。初代館長として児童のみならず高齢者も視野に入れた社会福祉に尽力しました。そんな人物との出会いは、阿部さんの人生を決定づけ、昭和32年、氏に請われて2代目館長に就任することになります。以後、「肢体不自由児こそ情緒的・機能的に特別な訓練が必要だ」として、肢体不自由児保育にわが国でも最初期に取り組むと共に公立施設設立に奔走し開所を实



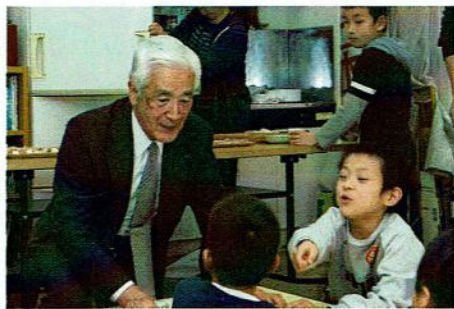


▲青山学院中学部の頃の阿部さん。

写真上はエベレット・トムソン夫妻と阿部さん夫妻。右上はNHKの番組で再会した井深八重さん(右)と。

▲父、義宗さんと。左が阿部さん。3歳の頃の撮影。

現させたほか、昭和34年には横須賀市で初めて乳児保育を開始。同38年には学童保育に取り組みました。



また、老人への給食サービスを早期に始めたほか、後年には認知症や障害者のデイサービスをはじめ、多機能な福祉複合施設を設置。児童と高齢者や障害者との交流を深める一方、近年は戦争・紛争による世界的な孤児問題に取り組むべく「国連世界孤児の日」の制定に中心として活動しています。

石井十次顕彰会は、こうした児童の健全育成に長期にわたり先導的に携わってきた実績を評価し、石井十次賞贈呈を決定しました。

阿部さんは「ソーシャルワーカーにとって石井十次は理想像。妻の祖父が十次のもとで奉仕活動していたという不思議な縁もあります。こんな名誉ある賞を頂き恐縮していますが、十次の精神を次世代に伝えていくべく尽力したいと思っています」と喜びを語っています。



総合的な福祉を行う横須賀基督教会社会館。

社会福祉の父 石井十次

慶応元（1865）年、宮崎県児湯郡高鍋町生まれ。日本で最初の孤児院を創設し、日本における社会福祉事業の先駆者としてその生涯を捧げた。

6歳で明倫堂で学び、9歳から13歳まで宮崎学校、高鍋学校で学び優秀な成績で卒業した。14歳で海軍士官を志望して東京の攻玉舎に入学したが病気のため帰郷し、郷里で教職に就く。

明治15（1882）年、医学の道を志して岡山県甲種医学校（現・岡山大学医学部）に入学。キリスト教に出会い洗礼を受ける。

22歳の時、岡山県で一人の男児を預かったのをきっかけに、岡山孤児院を創設。23歳で児童福祉と教育に専心する覚悟を決め、キリスト教信仰に根ざした孤児救済の事業に着手する。その後、大阪の愛染園託児所、郷里の宮崎県に茶臼原孤児院などを創設した。

明治24（1891）年の濃尾大震災で被災した93名の災害児童を救済。明治39（1906）年に東北大飢饉による孤児・貧困児約800名を岡山孤児院に保護し、院児数は1,200名を超えた。院内に尋常高等小学校を設置して一般家庭を上回る教育を施し、手に職をつけさせて子どもたちを自立に導いている。

大正3（1914）年、48歳で永眠。石井十次の精神は石井記念友愛社として引き継がれている。

